

令和元年6月25日現在

機関番号：23501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02683

研究課題名(和文) 読むこと・書くことや文法への気付きにつながる小学校英語のカリキュラム開発

研究課題名(英文) Developing an elementary school English curriculum to foster reading and writing competence, and realizing grammar

研究代表者

上原 明子 (Kambaru, Akiko)

都留文科大学・教養学部・准教授

研究者番号：50749025

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、新学習指導要領(平成29年度告示)に示された、読むこと・書くことの学習につながる文字指導、文字と音の関係の指導(フォニックス)、さらに文法への気付きを促す指導(フォーカス・オン・フォーム)を盛り込んだカリキュラムを開発するものであった。これらの指導の在り方を都留文科大学附属小学校の協力のもと検証し、音声中心の低学年カリキュラム、文字指導を取り入れた中学年のカリキュラム、文字と音の関係の指導(フォニックス)や読むこと・書くことを取り入れた高学年カリキュラムを完成させた。一方、文法への気付きを促す指導(フォーカス・オン・フォーム)については、十分に研究を進めることができなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学生の英語の読むこと・書くことの学習について、これまで中学校で行われてきた手法ではなく、小学生の発達段階にあった文字指導や、音声中心の指導と関連させながらなだらかに音声から文字へ移行する、文字と音の関係の指導(フォニックス)を取り入れたカリキュラムが完成した。この研究は、新学習指導要領(平成29年度告示)で新しく示された内容を先行して研究するものであり、それらについて、指導の在り方をいち早く教職員研修等で広めることができたことは、意義のあることであった。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study was to develop an elementary school English curriculum including alphabet instruction, phonics, and focus on form to connect to reading, writing, and realizing grammar displayed in the new Course of Study (notified in 2017). I verified how to instruct these with the co-operation of Tsuru University Fuzoku elementary school. As a result, the curriculum for lower grades including oral activities, the curriculum for middle grades including alphabet instruction, and the curriculum for upper grades including phonics, reading and writing instructions were developed. The time was not sufficient to study focus on form. I will continue to study it henceforth.

研究分野：小学校英語教育

キーワード：カリキュラム 文字指導 フォニックス

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

文部科学省は、2013年12月に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表し、その中で、小学校における英語教育を拡充強化する方針を明らかにした。そして、外国語活動を中学年に週1～2コマ、高学年には教科としての英語を週3コマ程度行う方向性を示した。さらに、2020年の完全実施および2018年の先行実施に向けて、2014年から教員研修や教材開発を始めた。

これまで、小学校英語は音声中心の活動であったが、今後はそれに加え、5,6年生で読むこと・書くことの学習も行われることになる。そこで、音声中心の活動とつなげながら、どのように小学校段階にふさわしい文字指導や文字と音の関係の指導(フォニックス)、読むこと・書くことの指導を行うのか、さらに、文法への気付きを促す指導(フォーカス・オン・フォーム)をいかに行うのかについての研究が必要とされると考えた。本研究は、2020年の学習指導要領完全実施に向けて必要とされている研究であった。

#### ・文字と音の関係の指導(フォニックス)

フォニックスとは、文字と音の関係を教える指導法である。

#### ・文法への気付きにつながる活動(フォーカス・オン・フォーム)

フォーカス・オン・フォームとは、意味の伝達を中心とした言語活動において、教師が必要に応じて学習者の注意を文法などの言語形式(form)に向けさせる指導のことである。日本で従来行われている文法指導とは異なる。世界的には1990年代後半に始まり、最近では日本でも高等学校や中学校での実践が行われ始めた。しかし、小学校におけるフォーカス・オン・フォームの実践は皆無である。

### 2. 研究の目的

本研究は、新学習指導要領(平成29年度告示)に示された、読むこと・書くことの学習、およびそれにつながる文字指導、文字と音の関係の指導(フォニックス)、さらに文法への気付きを促す指導(フォーカス・オン・フォーム)を盛り込んだカリキュラムを開発するものである。

### 3. 研究の方法

文字指導、文字と音の関係の指導(フォニックス)、さらに文法への気付きを促す指導(フォーカス・オン・フォーム)を、何年生からどのような形で指導するのが効果的なのかについて、教育課程特例校である都留文科大学附属小学校全教員の協力のもと検証した。まず、研究代表者が、文献研究や先進校視察をもとにカリキュラムの原案を作成した。そして、都留文科大学附属小学校でカリキュラムにそって授業研究を行った。

授業研究は以下のように行った。まず授業研究に先立ち、研究代表者が教員に対して、小学校英語教育の在り方、指導法についての研修を行った。特に、小学校教師にとってなじみのない、文字と音の関係の指導(フォニックス)と文法への気付きの指導(フォーカス・オン・フォーム)については丁寧に研修を行った。そして、カリキュラムの原案を提示して意見をもらった。研究授業に際してはまず、授業者は、研究代表者が提案したカリキュラムに基づいて学習指導案を作成した。次に、研究代表者を含めた教員全員でその学習指導案について協議した。研究授業では、授業者以外の教員が役割分担をし、児童の学びの様子を記録した。研究授業後の反省会では、児童の様子をもとに指導内容と指導法について協議した。研究代表者は、協議に参加するとともに、必要に応じて指導・助言を行った。このような過程を経ながら、研究代表者は、児童の様子や教師の意見をもとにカリキュラムを改良していった。

### 4. 研究成果

(1) 文字指導や文字と音の関係の指導(フォニックス)、読むこと・書くことの指導について  
これまで中学校で行われてきた手法ではなく、小学生の発達段階に合った、音声中心の指導と関連させたカリキュラムを開発した。カリキュラム開発にあたって、文献研究や先進校視察だけでなく、都留文科大学附属小学校において研究授業を行い児童や教師の反応を見ることができたことで、本当に児童に実施可能なものか、児童の力を伸ばすことになるのか等、カリキュラムの有効性を検証することができた。

#### 文字指導

第3学年から文字指導を開始する。第3学年の前半で活字体の大文字、後半で活字体の小文字を導入し、以後繰り返し文字を取り扱う活動を行う。文字を認識すること、文字の名前を正しく発音すること等について、視聴覚教材やゲーム、文字に関連する絵をふんだんに取り入れたワークシート等を活用しながら指導する。第4学年では、活字体の大文字及び小文字を4線に正しく書くことができるようにする。その際も、文字に関連する絵をふんだんに取り入れたワークシートを用い、発音しながら書くなど音声とからめながら指導を行う。

#### 文字と音の関係の指導(フォニックス)

第5学年では、文字と音の関係の指導(フォニックス)を行う。アルファベットには、名前のほかに音がある。アルファベットの名前、音、その音ではじまる単語をリズムに合わせて唱えるジングルの視聴覚教材を使って指導する。単に視聴するだけでは、児童は正しい発音ができないので、口形などの発音のこつを指導する。

### 読むこと・書くことの指導

第5学年で文字と音の関係の指導（フォニックス）を学習した後、それをもとに単語や語句及び文を推測しながら読む活動を行う。その際も、音声に十分親しんだ単語や語句や文を扱うこととし、文字を読むことで英語らしい発音やリズムが崩れないように留意する。書く活動においても、音声に十分慣れ親しんだ単語や語句や文を扱い、発音しながら手本を写すことから始める。その際、文頭は大文字で始めること、文末にピリオドまたはクエスチョンマークを付けること、単語と単語の間にスペースをおくことなどを指導する。

#### (2) 文字指導以前の音声中心のカリキュラム

外国語教育において、文字指導に入る以前に十分な音声にふれさせる必要がある。そこで、低学年児童用に絵本を題材とした音声中心のカリキュラムを完成させた。

#### (3) 教員向け研修への寄与

都留文科大学附属小学校と協力して研究を行ったことで、小学校教員の英語指導に関する研修に寄与することができた。上述した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」実施に向けて、教員研修は喫緊の課題である。文部科学省は、小学校英語教育推進リーダー等の研修を実施しており、そのリーダーが各都道府県で中核教員に研修を行う仕組みになっている。しかし、推進リーダーや中核教員として研修を受ける教員はごく限られた人数の教員であり、国がすべての教員に研修を徹底させることは難しいことである。

そういった点を考えると、本研究のカリキュラム開発において、都留文科大学附属小学校にて指導法研修を行ったり、教師全員で授業研究を行ったりしたことは、小学校英語教育についての教員研修に寄与することができたと言える。

また、教員に小学校英語に関する考えについてインタビューする中で、授業研究を行う前と後とで認識の違いが表れたことを確認することができた。授業研究以前は、英語指導について「本当に必要なのか」「不安」「ALTの活用が必須」「教材の提供が必須」など、否定的な意見であったが、授業研究後は、「校内で悩みの共有ができた」「英語力を伸ばしたい」「一人で教えられるようになりたい」「他教科の授業づくりとあまり変わらない」など、積極的な考え方が見られた。授業研究が授業スキルだけでなく教員の心情にもよい影響を与えていることが分かった。

#### (4) 文法への気付きを促す指導（フォーカス・オン・フォーム）について

文字指導や文字と音の関係の指導（フォニックス）についての研究に時間を要し、文法への気付きを促す指導（フォーカス・オン・フォーム）については十分に検証を行うことができず、今後の課題として残った。

#### (5) 新たな研究課題

本研究において文字と音の関係の指導（フォニックス）を進める中で、英語圏では近年、文字と音の関係の指導（フォニックス）の前に音韻認識（Phonological Awareness）を高める指導が行われていることがわかった。今後、文字と音の関係の指導（フォニックス）の効果を高めるために、日本人児童に合う音韻認識（Phonological Awareness）を高める指導の在り方についての研究を進めたい。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

KAMBARU Akiko, Qualitative Research and a Modified Grounded Theory Approach, *The Tsuru University Review* 88, 査読無、2018、pp. 47-58

DOI:<http://trail.tsuru.ac.jp/dspace/handle/trair/871>

KAMBARU Akiko, Elementary School Teachers' Developmental Process Associated with Teaching English in School-Based Lesson Study, *JASTEC Journal* 37, 査読有、2018、pp. 103-118

KAMBARU Akiko, What Pre-Service Teachers Learn About Foreign Language Activities in Their Teaching Practicum, *The Tsuru University Review* 84, 査読無、2016、pp. 1-17、DOI:<http://trail.tsuru.ac.jp/dspace/handle/trair/755>

KAMBARU Akiko, Japanese Elementary School Teachers' Perceptions About English Teaching, *The Tsuru University Review* 83, 査読無、2016、pp. 11-20、

DOI:<http://trail.tsuru.ac.jp/dspace/handle/trair/739>

KAMBARU Akiko, Incidental English Learning of Japanese Elementary School Students by Oral Input in Daily School Life, *The Tsuru University Review* 82, 査読無、2015、pp. 11-28、DOI:<http://trail.tsuru.ac.jp/dspace/handle/trair/712>

〔学会発表〕(計3件)

上原 明子, 「小学校英語で大切にしたいこと～日米の公立小学校での教師経験から～」、日本児童英語教育学会関東甲信越支部研究大会、2018

上原 明子、「コミュニケーション能力の基礎を育てる授業づくりと環境づくり」、日本児童英語教育学会第36回秋季研究大会、2016

上原 明子、「基礎・基本からコミュニケーションへ 英語のやり取りの連続を通して」、日本児童英語教育学会全国大会、2015

〔図書〕(計5件)

上原 明子、春風社、The Developmental Process of Japanese Elementary School Teachers Associated with Teaching English while Engaged in Lesson Study、2019、全210頁

上原 明子他、研究社、新編小学校英語教育法入門、2017、全240頁(担当頁 p. 102, p. 122, pp. 178-183)

上原 明子他、開隆堂出版、はじめての小学校外国語活動実践ガイドブック、2017、全96頁(担当頁 pp. 76-78)

上原 明子他、教育出版、Q&A 小学英語指導法事典教師の質問 112 に答える、2017、全280頁(担当頁 pp. 85-86, p. 114, pp. 122-123, pp. 124-125, pp. 158-162)

上原 明子他、開隆堂出版、小学校英語早わかり実践ガイドブック、2017、全96頁(担当頁 pp. 46-49)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

上原 明子、「新学習指導要領における小学校外国語活動・外国語科の授業づくり」、山梨県市町村教育委員会連合会秋季研修会にて講演、2018

上原 明子、「大学による教育課程特例校支援」、『英語教育』9月号、大修館、2018

上原 明子、「Letter to Teachers」『Junior Sunshine』Vol.2-2、開隆堂、2018

上原 明子、「新学習指導要領に対応した外国語科及び外国語活動の授業づくり」、匝瑳市外国語教育研究会・外国語部会研修会にて講演、2018

上原 明子、「新学習指導要領を見据えての小中連携 小学校英語の役割」、千葉県茂原市英語部会研修会にて講演、2018

上原 明子、「新学習指導要領を見据えての小中連携 小学校英語の役割」、山中湖村英語教育推進委員会研修会にて講演、2017

上原 明子、「新学習指導要領を見据えての小中連携 小学校英語の役割」、千葉県教育研究会松戸支会英語部会研修会にて講演、2017

上原 明子、「英語を楽しむ子どもを育てる授業づくり」、甲府市教育研究協議会英語部会夏季研修会にて講演、2017

上原 明子、「小学校英語の役割」『Junior Sunshine』Vol.1-2、開隆堂、2017

上原 明子、「外国語活動のこれからと英語絵本の読み聞かせ」、甲府市図書館教育研究会にて講演、2015

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。